

令和元年度事業報告

学校法人 田中千代学園

[服飾専門課程存続への学科・定員見直しについて]

見直した結果、今年度応募実績が改善し、募集定員との乖離も小さくなってきました。服飾専門課程の3学科体制を2年制1学科(ファッション総合学科)とし、クリエイターコースとビジネスコースの2コース制とし、特にファッション総合学科・クリエイターコースと命名したことで、広報に関する発信が志望者に伝わりやすくなり、学校名に渋谷を付け3年目を迎えたこと等による認知度アップの影響も加味されたと推察されます。1学科2年制への移行に合わせ専攻科存続は難しい現状ですが、今までの専攻科の位置付けでは、社会の変化に合わせた場合避けて通れない道でもあります。もしどうしても復活のケースは特色を持たせた形以外、同じような道をたどると思います。しかし、今回の新型コロナウイルス事変による影響は教室閉鎖もとより卒業式未実施まで及びました。もっと大きく見れば、ファッション業界の在り方を再考せざるを得ない動きへと進まざるを得ないと思います。ネット販売は、これを機に加速し、対面販売は思い切った収縮以外存続方法は見つからず、それらの流れを受け、関連業界(学校含め)にも大きな影響が及びます。もの作りから流通・販売まで変容を見せるでしょう。同時にAI化の流れから仕事はデジタル化された1つの流れへ移りつつあり、新たな動きが加速するでしょう。学校も時代対応の強化が必然で、もの作りを基本としてきた当学園としての対応の仕方は存続を掛けた大きな決断が必須となります。もちろん授業体制から講師陣容含めカリキュラム内容も大きく手をつけなければならないことが予測されます。

[収益構造含めた抜本的対策について]

両課程ともに入学者増が2年継続し、決算数字からは、この2年で赤字額は大きく縮小しました。しかしコロナ禍は服飾専門課程の今後を捉えた場合、抜本的対策が可及的速やかに考えられない場合、学校組織そのものの致命傷にならざるを得ません。ファストファッションとマニアックなモノ作りの二極化が加速すると同時に、学校としての在り方も遠隔授業可能な世界とアナログ的な授業体制とが試されていくものと推定されます。そのどちらを選択するかも含め大きな対策が必要です。

30年度に文化専門課程をスタートさせましたが、日本画コースは手直しを行い、版画・

彫刻コースも将来的な教室の在り方について模索を始めました。イラストレーションコースはコース自体募集から外すことにより、学校としての立ち位置を明確にしました。留学生募集については、ここ数年中国人留学生の美術大学志望が強まった傾向を鑑み、ホームページ留学生対策と日本語学校へのアプローチ強化が功を奏し、文化課程留学生入学増へと繋がりました。

公開講座については費用対効果を分析し、採算面から改善をしました。更に年度末に今年9月に廃業が決定したカルチャースクール「東急 BE」から5つの講座後継先の1つとしてお話があり美術・手工芸中心に採算面をきっちり捉えた上で取り込む方針です。これにより公開講座の採算性が大きく改善し、黒字化が図られる予定になりました。

人件費は学校運営で比重が大きいことから年度末に任期満了を迎えた役職者2名の後継は取り敢えず置かないこととしました。先ず減員し足りない場合は補充していく方向です。カリキュラム内容含め兼任教員時間数見直し等、細かい積み重ねで人件費抑制を継続的に努め、収益構造改善を目指しますが、それだけでは大きな数字にはなりません。光水熱費・修繕費等々、これもそれぞれ精査し改善を重ねました。財務内容改善は待ったなしの状態ですが、あと一步のところまで来ました。再度、現状分析し、継続的に1つ1つ地道な取り組みで安定的な運営を目指します。

[その他収益の確保について]

千代ビル再賃貸に関しては継続的に今後10年間収益に結びつく運びとなりました。

上記東急 BE 関連講座取組み実現により公開講座運営も継続的に黒字ベースが可能となる予定です。但し、スペース確保の観点から、各教室含め学内全てのスペースの効率的利用を避けることはできません。再度の玉突き移動及び整理整頓は学園の恒常的安定運営の為との割り切りが必要とされます。今までは新課程導入の為、内装設備中心に出費が必要でしたが、これからは部屋間移動中心となり経費負担は軽減されますが、教職員の作業は暫くお願いせざるを得ないをご理解ください。

以上